

速報 平成27年度全国学力・学習状況調査結果(下野市の概要)

平成27年 9月 1日
下野市教育委員会

平成27年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果(国語、算数・数学、理科)は、全国の平均正答率と比べ、小学校は国語以外の教科はほとんどの領域で、中学校は全教科のすべての領域で、全国平均正答率を上回る結果となりました。

【全国学力調査】

- A問題(主として「知識」に関する問題)
- B問題(主として「活用」に関する問題)

- ◇国語の領域(小・中)「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
- ◇算数の領域(小)「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇数学の領域(中)「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」
- ◇理科の領域(小)「物質」「エネルギー」「生命」「地球」
(中)「物理的領域」「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」
*理科はA・B問題を一体的に出題

【全国学習状況調査(児童・生徒質問紙)】

- 質問数 小学校、中学校ともに87問
- 回答方法 4つから選択等
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容
 - 朝食 ○起床・就寝時刻 ○達成感、挑戦、長所、目標
 - テレビ・DVD、ゲーム時間 ○携帯・スマートフォンの使用時間
 - 学習時間、学習塾 ○読書時間・図書館の利用
 - 家庭でのコミュニケーション ○家族の学校行事への参加
 - 家庭学習(計画、宿題、予復習) ○学級のきまり、協力
 - 地域・社会への関心 ○新聞・ニュースの利用
 - 規範意識、人の気持ち、いじめ、人の役に立つ人間
 - 総合的な学習の時間 ○授業における発表の機会、話し合い活動
 - 授業の目標 ○振り返り活動 ○ノート、作文 ○国語の学習
 - 算数・数学の学習 ○理科の学習 ○問題の解答時間 等

【児童・生徒のデータについて】

- *下野市 市内小中学校全校のデータ
- *栃木県 公立小中学校全校のデータ
- *全 国 公立小中学校全校のデータ

平成27年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国平均正答率との比較【H19～27全体比較】

※ H23、24 は抽出調査

◎大きく上回っている (5ポイント以上)

○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校	H19	H20	H21	H22	H25	H26	H27	中学校	H19	H20	H21	H22	H25	H26	H27
国語A	○	○	○	○	○	▽	▽	国語A	◎	○	○	○	○	○	○
国語B	◎	○	○	－	○	○	－	国語B	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
算数A	○	○	－	○	○	－	－	数学A	◎	◎	◎	◎	○	○	○
算数B	◎	○	－	○	○	○	○	数学B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
理科	/	/	/	/	/	/	○	理科	/	/	/	/	/	/	○

全国学力調査結果 下野市と全国平均正答率との比較【H27領域別比較】

◎大きく上回っている (5ポイント以上)

○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校国語	国語A	国語B	中学校国語	国語A	国語B
話すこと・聞くこと	▽	/	話すこと・聞くこと	○	○
書くこと	○	－	書くこと	◎	○
読むこと	－	○	読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	/	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	/

小学校算数	算数A	算数B	中学校数学	数学A	数学B
数と計算	－	○	数と式	○	○
量と測定	▽	○	図形	○	◎
図形	○	○	関数	○	○
数量関係	－	▽	資料の活用	○	◎

小学校理科	理科	中学校理科	理科	
主として「知識」	○	/	主として「知識」	○
主として「活用」	○	/	主として「活用」	◎
物質	－	/	物理的領域	◎
エネルギー	－	/	化学的領域	○
生命	○	/	生物的領域	○
地球	○	/	地学的領域	○

1 小学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、「書くこと」で全国の平均正答率を2ポイント程度上回っていました。他の3領域は全国の平均正答率を0～2ポイント近く下回っていました。国語のB問題は、「書くこと」が全国の平均正答率を1ポイント近く下回っていました。「読むこと」は全国の平均正答率を1ポイント程度上回りました。

算数のA問題は、「数と計算」「図形」で全国の平均正答率が0～2ポイント程度上回っていました。「量と測定」「数量関係」では全国の平均正答率を0～2ポイント近く下回っていました。算数のB問題は、「数量関係」が全国の平均正答率を3ポイント近く下回っていましたが、他の3領域は1～3ポイント程度全国の平均正答率を上回っていました。

理科では、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題ともに、全国の平均正答率を2～3ポイント近く上回っていました。4領域とも0～4ポイント近く上回っていました。

2 中学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、「書くこと」が全国の平均正答率を5ポイント程度上回っていました。他の3領域は2～5ポイント上回っていました。B問題は、3領域とも全国の平均正答率を1～3ポイント近く上回っていました。

数学のA問題では4領域とも全国の平均正答率を3～5ポイント近く上回っていました。B問題では、「数と式」「関数」で3～5ポイント近く上回っていました。「資料の活用」は昨年度に続き5ポイント程度上回り、特に「図形」は、全国の平均正答率を7ポイント程度上回っていました。

理科では、主として「知識」に関する問題は全国の平均正答率を1ポイント程度上回り、主として「活用」に関する問題では5ポイント程度上回りました。「物理的領域」で全国の平均正答率を6ポイント近く上回り、他の3領域では2～4ポイント近く上回っていました。

3 小・中学校の全国学習状況調査結果について

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、小学校では87項目中57項目で全国・県平均を上回っていました。中学校では87項目中60項目で全国・県平均を上回っていました。

小・中学校とも共通して、「朝食」「起床時間」「やり遂げたときの達成感」「将来の夢・目標」「ニュース番組を見る」「人の気持ちが分かる人間」「授業で考えを発表する機会」「文章を書く」「国語の勉強は大切」「理科の勉強は大切」「理科の授業で考察している」等について、よい傾向が見られました。

今後、この結果を分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。